

第19編 教育委員会
(生涯学習部)

生涯学習課

1 市民学園講座

生涯学習機会の提供と芸術文化の振興を図るため、生涯学習センター等において各種講座を開催している。

(1) ライフステージ講座

ア 子育て対象

子育て応援プログラム：乳幼児を持つ家庭等のための講座（17回）

イ 子ども対象

わくわく体験隊：4～6年生を対象とした体験学習講座（10回）

子どもチャレンジ：夏・冬休み期間を中心に行う体験や工作の講座（5回）

ウ 高齢者対象

わくわくセカンドライフ：陶芸、料理、健康、仲間づくりのための講座等（17回）

エ 女性対象

いきいき女性講座：手芸、料理、健康、仲間づくりのための講座等（19回）

オ 釧路学講座

釧路学教養講座：道東地方の自然・歴史をテーマとした体験学習講座（13回）

カ ふるさと講座

ライフアップ講座：釧路の歴史・産業・自然・食・観光等を手軽に学ぶ講座（8回）

(2) くしろ市民大学

教育機関、関係団体、企業と連携し、市民としての意識を高揚させ、学習成果をまちづくりへ活用することを念頭に置いた、幅広いテーマの講座（7回）

(3) 共催事業

高等教育機関・専門研究機関・各種団体・関係官庁・庁内等と連携した講座、事業の開催

2 学習情報提供

- (1) 「広報くしろ」等各種媒体の活用
- (2) 釧路市生涯学習ハンドブックの活用
- (3) 釧路市生涯学習人材バンク制度の活用
- (4) 釧路市生涯学習まちづくり出前講座の実施

3 社会教育の推進

(1) 釧路市社会教育推進計画の推進

本市における社会教育行政の指針である釧路市社会教育推進計画の進行管理を行う。

(2) 釧路市社会教育委員

社会教育に関する諸計画の立案を行い、定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じて意見を述べるとともに、そのための研究・調査を行う組織として、20名以内の学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び学識経験者で構成し、定例会議を年2回、釧路市社会教育推進計画評価会議を年1回開催している。

(3) 釧路市社会教育施設等運営審議会

社会教育施設等の管理運営に関する諸事項を審議するため、15人以内の学識経験者で審議会を構成し、定例会議を年2回開催している。

4 社会教育事業

(1) くしろ20歳のつどい

新しく20歳になる青年男女の集いを開催している。

ア 2020「くしろ20歳のつどい」

令和3年1月9日（日）に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響から令和3年8月14日（土）に延期して開催した。

(ア) 日 時 令和3年8月14日 午後2時～

(イ) 場 所 市民文化会館、生涯学習センター、湿原の風アリーナ、阿寒町公民館、音別町行政センター

(ウ) 該当者 総数223人

イ 2021「くしろ20歳のつどい」

(ア) 日 時 令和4年1月9日 午後2時～

(イ) 場 所 市民文化会館、阿寒町公民館、音別町文化会館

(ウ) 該当者 総数990人

5 釧路市文化芸術振興計画の推進

本市における文化芸術振興の指針である釧路市文化芸術振興計画の進行管理を行う。

6 釧路市子ども読書活動推進計画の推進

本市における子ども読書活動の指針である釧路市子ども読書活動推進計画の進行管理を行う。

7 釧路市文化賞・文化奨励賞

本市の芸術（音楽、文学、美術、芸能）、科学（自然科学、人文科学）の各分野において、その発展に著しく貢献した個人または団体を顕彰している。毎年自薦、他薦のあった者を文化賞審議会に諮り、その結果に基づき教育委員会が受賞者を決定する。

これまでの受賞者数は、文化賞が52名、13団体、文化奨励賞が46名、22団体となっている。

◎近年の受賞者

年 度	釧 路 市 文 化 賞	釧 路 市 文 化 奨 励 賞
元	釧路鳥取かさ踊り保存会 (芸術～郷土芸能)	二橋 潤一 (芸術～音楽) 永久保秀二郎日誌を読む会 (芸術～郷土史研究)
2	高橋 佐吉 (芸術～文化振興)	片桐 茂貴 (芸術～文化振興)
3	吾孫子 雄子 (芸術～美術) 小林 民子 (芸術～文学)	該 当 な し

8 基金

(1) 釧路市文化振興基金

市民文化及び社会教育の育成向上並びに社会教育施設の整備充実を図るため設置されている。

令和4年3月末現在、基金の元金は4,032千円。

(2) 釧路市カケハシ青少年育成基金

青少年の文化及びスポーツ育成の向上を図るため設置されている。

令和4年3月末現在、基金の元金は4,230千円。

(3) 釧路市図書館資料整備基金

図書館資料の整備及び充実を図るため設置されている。

令和4年3月末現在、基金の元金は26,802千円。

9 釧路市文化振興条例による助成

文化振興条例により、本市の文化及び社会教育の振興に寄与する文化活動を行う団体及び個人等に対して助成を行い、市民文化及び社会教育の育成と向上を図っている。

助成金を交付することができるのは次のような場合である。

- (1) 本市の文化及び社会教育の振興に著しく寄与すると認められる発表会、講演会、展覧会及び展示会（以下「発表会等」という）を開催するとき、又は出版物の刊行をするとき。
- (2) 市内で全道的な規模以上の発表会等を開催するとき。
- (3) 全市的な規模で総合的な発表会等を開催するとき。
- (4) 全市的な規模で児童生徒の発表会等を開催するとき。
- (5) 児童生徒が予選等を経て、全道的な規模以上の発表会等に出場するとき。
- (6) その他教育委員会が文化及び社会教育の振興のため特に意義があると認めた発表会等、研修会若しくは会議を開催し、又はこれらに出場し、若しくは参加するとき。

10 地域史料

- (1) 地域史料の収集と保存

恒常的に地域史料の収集と保存をし、将来の市史編さん事業の活用にも備えている。

- (2) 地域史料調査研究専門委員会

史料の収集・保存・研究、釧路市史の調査・研究、出版物の編さんについて市内在住の学識経験者による専門委員に意見を伺いながら、地域史研究の充実を図っている。

- (3) 太平洋炭砒資料の保存

太平洋炭砒82年の歩みを紹介する写真パネル・文献・労働組合資料などを釧路市中央図書館にて保存している。

- (4) 地域史料の活用と刊行物の発刊

ア 釧路叢書の刊行

釧路叢書は、釧路市周辺の自然科学、社会科学、文化、産業の各分野にわたる学術的、史的資料を収集整理し、体系的に読者に提供すべく昭和35年から刊行しており、これまでに41巻と別冊2巻を刊行している。

イ 釧路新書の刊行

釧路新書は釧路地域に関するテーマをより平易に、親しみやすい内容表現で読者に提供しようとする目的をもって昭和52年度より刊行を始めたものである。これまでに34巻、別冊1巻を刊行している。

11 釧路市交流プラザさいわい

釧路市交流プラザさいわいは、市民の学習活動を奨励し、文化、教養及び福祉の向上を図るとともに、男女が共に参画する社会の形成に寄与することを目的として設置されている。

- (1) 施設の概要

ア 所在地 釧路市幸町9丁目1番地

イ 開設年月日 平成13年4月1日（旧福祉会館 昭和46年7月、旧婦人会館 昭和54年4月開館）

ウ 主な施設 会議室、大ホール、小ホール、多目的ホール、和室、音楽室、料理教室、華道室、茶道室、遊戯室、絵画室、彫塑室

- (2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入（耐震改修等の期間を除く。）

- (3) 年度別利用状況

年 度	元	2	3
件 数	8,376 件	5,310 件	5,870 件
人 数	100,107 人	45,044 人	51,503 人

12 釧路市民文化会館

釧路市民文化会館は、市民の文化活動などの発表の場を提供するとともに、優れた文化、芸術等の鑑賞の機会を設け、市民文化の向上に資することを目的に設置され、講演会、コンサート、展示会、式典等に利用されている。

(1) 施設の概要

ア 所在地 釧路市治水町12番10号

イ 開館年月日 昭和54年11月3日

ウ 主な施設 大ホール、小ホール、楽屋、展示ホール、喫茶食堂、売店、練習室、会議室

※平成30年9月に株式会社リアブルが施設命名権（ネーミングライツ）を取得。（令和4年4月契約更新）

(2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別利用状況

年 度	元	2	3
件 数	1,427 件	918 件	1,185件
人 数	130,063 人	29,388 人	60,404人

13 釧路市生涯学習センター

釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」は、生涯学習のための複合施設で、市民の様々な学習文化活動など生涯学習の場として利用できるほか、生涯学習に関する情報の提供や相談も受け付けている。また、多様な機能を活用した展示会、各種コンサート、各種講座や展示会等、市民団体の発表の場として利用される他、国内外の優れた芸術家を招聘した舞台芸術、コンサート等、芸術鑑賞事業等が開催されている。

(1) 施設の概要

ア 所在地 釧路市幣舞町4番28号

イ 開館年月日 平成4年11月1日

ウ 主な施設 大ホール、楽屋、リハーサル室、市民展示ホール、多目的ホール、学習室、会議室、和室、茶室、工芸・音楽・アート・クッキングスタジオ、ハイビジョンシアター

(2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別利用状況

年 度	元	2	3
件 数	5,581 件	3,628件	4,224 件
人 数	161,580 人	67,290人	91,340 人

※釧路市立美術館利用者数を含まない。

14 釧路市立美術館

平成12年度より釧路市生涯学習センター内のアートギャラリーを「釧路市立美術館」に変更し、美術作品の鑑賞機会の提供・普及を目的として展覧会を開催している。

特別展をはじめ、市所蔵作品を中心としたコレクション展や、地元作家による釧路郷土作家展など、年間を通して展覧会を開催できるよう企画し、鑑賞機会の充実を図っている。

(1) 展覧会事業

ア 特別展「巨匠とパレットー創作の秘密ー」 令和3年4月10日～6月13日

イ 特別展「ペキタと探検！ ガラスの不思議 ヴェネチアン・グラスと絵画の世界展」
令和3年7月10日～9月5日

ウ 特別展「上野憲男展」 令和3年9月28日～11月14日

エ ミニ企画展「羽生輝展」 令和3年11月20日～12月12日

オ コレクション展「名品選+新収蔵品展」 令和4年1月4日～2月6日

カ コレクション展「ヒトのかたち」 令和4年2月19日～3月20日

キ 釧新郷土芸術賞第50回記念作品展 令和3年6月26日～7月4日

ク 創設100周年記念釧美展（第103回） 令和3年9月15日～9月19日

- ケ 第95回記念道展第65回釧路移動展 令和3年11月23日～11月28日
 コ 第69回釧路郷土作家展（前期：美術） 令和4年2月19日～2月27日
 サ 第69回釧路郷土作家展（後期：書道・写真） 令和4年3月12日～3月20日

(2) 展覧会関連事業

- ア 講演会、作品解説、作品講評、ワークショップ
 イ 図録の出版

(3) 年度別実施結果

	元年度			2年度			3年度		
	特別展	コレクション展	その他	特別展	コレクション展	その他	特別展	コレクション展	その他
件数	3件	5件	3件	2件	3件	3件	3件	3件	5件
人数 (合計)	10,168人	3,187人	2,428人	8,756人	1,941人	2,035人	4,305人	1,551人	4,577人
	(15,783人)			(12,732人)			(10,433人)		

(4) 連携・協力

ア アートギャラリー協会事業

市で主催する展覧会や関連事業の開催協力並びに研修旅行等の各種事業を行っており、個人・法人会員により構成されている。また、道立釧路芸術館で開催される特別展も鑑賞の対象になっており、鑑賞機会の充実を図っている。

15 図書館

図書館のサービスは、本館と分館（釧路市西部地区図書館、釧路市東部地区図書館、釧路市中部地区図書館、音別町ふれあい図書館）、分室（阿寒町公民館図書室）、図書館バス2台で行っており、図書の貸出・返却は、これらのどこからでも行える。

また、平成19年度から図書館運営システムがインターネットに接続されたことにより、図書館ホームページ上で蔵書の検索、予約などを行うことができるようになった。

このほか、資料の調査・相談に応じるレファレンスサービスや読書普及活動事業として、「読み聞かせ」「ブックトーク」などを本館、分館、分室、学校などで行っている。

なお、名称を釧路市中央図書館と改め、文学館を併設した新図書館が平成30年2月3日に開館した。減震装置付書架の導入をはじめとする利用者の安全安心の確保、ICタグ、自動貸出機の導入による利用者の利便性の向上など、充実した図書館サービスを提供することで、更なる市民サービスの向上を図っている。

(1) 釧路市中央図書館（本館）

- ア 所在地 釧路市北大通10丁目2-1（新釧路道銀ビル内3～7階）
 イ 開館年月日 平成30年2月3日
 ウ 施設の管理運営 平成29年4月1日から現指定管理者による管理運営（市立釧路図書館から継続）

(2) 釧路市西部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市鳥取北8丁目3番10号
 イ 開館年月日 平成2年8月1日
 ウ 施設の管理運営 平成29年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(3) 釧路市東部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市益浦1丁目20番20号
 イ 開館年月日 平成5年10月1日
 ウ 施設の管理運営 平成29年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(4) 釧路市中部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市愛国191番地5511
 イ 開館年月日 平成12年8月1日
 ウ 施設の管理運営 平成29年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(5) 音別町ふれあい図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市音別町朝日2丁目81番地

イ 開館年月日 平成4年7月1日

(6) 阿寒町公民館図書室（分室）

ア 所在地 釧路市阿寒町中央2丁目4番1号

イ 開館年月日 昭和62年3月25日

(7) 釧路文学館

ア 所在地 釧路市北大通10丁目2-1（釧路市中央図書館内）

イ 開館年月日 平成30年2月3日

ウ 施設の管理運営 本館指定管理者による管理運営

(8) 図書館利用状況

ア 蔵書数（冊）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
元年度	339,055	59,502	53,974	59,042	32,221	55,556	599,350
2年度	342,232	59,135	52,693	58,636	32,118	56,589	601,403
3年度	348,428	58,382	51,996	57,373	31,907	57,433	605,519

イ 利用者数（人）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
元年度	207,578	23,326	16,846	25,633	3,181	5,409	281,973
2年度	148,510	18,830	12,927	20,220	2,422	3,883	206,792
3年度	145,694	20,390	14,067	23,112	2,150	4,029	209,442

ウ 貸出冊数（冊）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
元年度	383,968	93,314	69,854	104,710	9,542	30,275	691,663
2年度	321,990	77,330	54,794	85,602	7,994	24,002	571,712
3年度	365,978	81,167	60,133	99,512	7,524	23,598	637,912

エ レファレンス件数（件）

年度	元	2	3
件数	27,277	22,041	20,596

16 釧路市こども遊学館

次代を担う子どもたちが、遊びや学び等多様な体験を通して豊かな感性、創造力及び知的好奇心を高め、また、各世代が子どものために協働し、互いの交流を深めながら、科学知識の普及啓発を図ることを目的としている。

(1) 施設の内容

ア 所在地 釧路市幸町10丁目2番地

イ 開設年月日 平成17年7月1日

ウ 主な施設 全天候型広場、遊びの広場、展示室、プラネタリウム室、実験室、事務室、会議室、視聴覚室等

(2) 施設の管理運営 平成17年7月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別入館者数

年度	元	2	3
人数	86,572人	42,914人	62,876人

17 アイヌ文化の振興

アイヌ民族の歴史と文化に関しては、その理解の促進を図るとともに、豊かで優れた伝統芸能の伝承活動を支援し、アイヌ文化の保存・伝承に努めている。

アイヌ政策推進交付金を活用し、アイヌ文化を振興し後世に繋いでいくための事業に取り組んでいる。

(1) 伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業（イオル再生事業）進捗状況

ア 釧路・阿寒イオル協議会設立（平成29年度）

イ 釧路地域イオル再生事業の実施（平成30年度～令和元年度）

ウ アイヌ政策推進交付金事業へ移行し、伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援事業として実施（令和2年度～）

(2) 高齢者コミュニティ活性化による文化知見の伝承・共有化事業（令和元年度～）

ア アイヌ民族高齢者による伝承会の開催

イ アイヌ民族への聞き取り調査

ウ 山本多助氏記述資料翻刻作業

(3) アイヌ音楽文化育成事業（令和3年度～）

アイヌの伝統楽器であるトンコリやムックリによるアイヌ音楽の演奏技術や伝統音楽の継承と、アイヌ民族子弟による新たなアイヌ語による音楽を制作し、アイヌ音楽やアイヌ語の普及啓発を行う。

18 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

(1) 文化振興イベント開催支援事業

客席の収容率が制限されるイベント等の開催を支援するため、文化団体等が使用する文化施設ホール使用料（冷暖房費、付属設備使用料を含む）の一部を補助し当市の文化振興を図った。（補助交付件数53件）

(2) 成人式抗原検査事業

抗原検査キットを購入して、くしろ20歳のつどいの対象者や式典従事者に事前配布し検査を行い、擬陽性者の来場を未然に防ぎ、クラスターを発生させることなく安全・安心に式典を開催することができた。（抗原検査キット2,000個購入）

(3) 図書館資料購入事業

読書活動サポートセットの整備を行い、児童が図書館の本を自由に利用できる環境を複数の小学校で作ることにつながり、コロナ禍における在宅時間充実のための読書習慣の形成の一助とすることができた。（図書購入数4,636冊）

ス ポ ー ツ 課

1 スポーツ都市宣言

釧路市並びに釧路市教育委員会は、平成元年6月1日「スポーツ都市宣言」を行った。

2 コミュニティスポーツ活動普及振興

地域住民組織を基盤とした地域スポーツ集団づくりを目的として、小学校通学区域ごとに「地域スポーツ推進協議会」が組織されている。この推進組織を母体に「総合型地域スポーツクラブ」への移行を図り、地域住民が各自に適したスポーツ活動に参加できるよう自主的活動を促進している。

(1) 小・中学校屋内体育館の定期的開放によるスポーツ活動の場の提供

(2) 地区スポーツ教室の開設

軽スポーツ、レクリエーションを中心としたスポーツ教室を地区ごとに実施している。

(3) 地域スポーツ大会の開催

地区間のコミュニケーションと体力づくりを目的として、定期的な軽スポーツ大会を開催している。

(4) 地区指導者の養成・配置

釧路市地域スポーツリーダーとしてスポーツ指導員を養成・委嘱し、地域スポーツ行事の開催、地域住民の積極的かつ自主的スポーツ活動に関する意識の高揚を図る。

3 スポーツを普及するための主な事業

(1) 市民健康サークル等の育成

婦人健康サークル、高齢者サークル等の育成指導を行う。

(2) 第49回釧路湿原マラソンの開催（令和3年9月22日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会開催中止

老若男女各人の体力に応じたコース（マラソン：30km・10km・3km・親子3km、ウォーク：30km・15km）を設定している。

平成14年度より、市民はもとより全国から多くの愛好者に参加してもらえるよう、観光面でも釧路をPRできる釧路湿原内をコースとし、30kmマラソンと30kmウォークを新設した。さらに、平成17年度には要望の強かった15kmウォークを新設した。

ア 年度別参加者数

年 度	元	2	3
マラソン	2,860人	—	—
ウォーク	328人	—	—

(3) 第16回全日本少年アイスホッケー大会（令和4年3月24日～29日）

（一財）地域活性化センターが支援する「スポーツ拠点づくり推進事業」として、平成18年度より27年度までの10年間を本市で開催し、平成28年度より「スポーツ拠点づくり自立促進事業」として、毎年開催している。

第14回、第15回、第16回大会においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止、並びに選手の健康・安全面の確保を図ることから、大会開催が中止となった。

年 度	元	2	3
参加選手数	—	—	—

4 スポーツ活動の促進と優秀選手の育成・強化

(1) スポーツ関係団体の育成強化

ア スポーツ同好グループの育成

イ 競技スポーツ団体の育成と競技力向上

ウ 各種スポーツ指導者講習会の開催

エ スポーツ少年団の育成と拡大

(2) スポーツ団体の運営補助及びスポーツ振興助成条例に基づく助成金の交付

- ア スポーツ団体運営補助
- イ 全道、全国規模の大会開催助成（釧路市開催の場合）
- ウ 全道、全国、国際大会出場派遣助成
- エ 講習会開催助成

(3) 釧路市体育祭の開催

釧路市スポーツ協会との共催で、令和元年度より秋季、冬季を統合して開催している。

令和3年度実績 22種目 2,433名参加（新型コロナウイルス感染症の影響により、一部種目は中止）

(4) 釧路市スポーツ賞・釧路市スポーツ奨励賞

本市のスポーツ普及、振興に特に貢献したと認められる者及びスポーツの優秀な成績を収めた者を顕彰している。

◎近年の受賞者

区 分	釧路市スポーツ賞	釧路市スポーツ奨励賞
元年度	千葉 賢市（卓球）	該 当 な し
2年度	中嶋 進（スケート）	土屋 健介（ハンドボール）
3年度	山辺 文彰（ハンドボール）	該 当 な し

5 指導者の確保と指導体制の確立

(1) 釧路市スポーツ推進委員

本市におけるスポーツの振興のため、市民に対し、スポーツ実技指導やスポーツに関する指導助言を行う者として釧路市スポーツ推進委員を委嘱している。本市の体育・スポーツ普及振興事業の企画に参画し、その推進役として活動するほか、地域スポーツ活動のための協力者の発掘と指導、助言を行っている。

令和3年度末現在 34名

(2) 釧路市地域スポーツリーダーの配置

コミュニティスポーツの普及振興のため、地域住民のうちスポーツに理解があり、熱意のある者を、釧路市地域スポーツリーダーとして委嘱している。

令和3年度末現在 42名

(3) 釧路市スポーツ指導団体

体育、スポーツ、レクリエーションの指導、助言のできる指導者を登録し、地域住民や職場、サークル等の要請により派遣している。

令和3年度末現在 32種目 583名登録

6 体育施設の活用

地域におけるスポーツの普及と学校体育施設の有効活用を図るため、小・中学校の体育施設を一般市民に開放している。自主的スポーツサークルに対する団体開放と地域スポーツの拠点として開放する地域開放がある。

令和3年度開放実績

屋内体育館 小学校23校（廃校施設含）、中学校12校、義務教育学校1校

グラウンド（夜間） 中学校1校

開放日数 1,960日 延 20,177名利用（団体開放 9,547名、地域開放 10,630名）

7 スポーツ合宿の誘致

各種体育施設の有効活用と地元競技者の技術力の向上を図るとともに、交流人口の拡大による地域活性化に資するため、本市の地域特性である夏季の冷涼な気候などをアピールしながら、合宿誘致推進委員会との連携のもと、スポーツ合宿の誘致活動を行っている。

(1) 令和3年度の状況

ア スポーツ合宿誘致推進委員会の開催（令和3年度は開催なし）

イ 合宿来訪団体数 団体 2,069名（市内1,314名・阿寒755名）

（アイスホッケー 24団体、陸上競技 15団体、フィギュアスケート 13団体、硬式野球 11団体
フットサル 2団体、スピードスケート 1団体、スキー 70団体、スノーボード 8団体）

ウ 釧路市オリンピック・パラリンピック合宿誘致スーパーバイザー協議会の書面開催（6月6日）

（ア） 情報収集及びPR活動

（イ） 合宿受入

a ナショナルチーム等の合宿受入（関西実業団陸上連盟 7/26～8/2）

b パラリンピックベトナム選手団の合宿受入（中止）

(2) 年度別状況

年 度	元	2	3
種目数（種目）	10	8	8（市内6・阿寒2）
団体数（団体）	91	32	144（市内66・阿寒78）
人 数（人）	2,305	501	2,069（市内1,314・阿寒755）

8 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

(1) 体育施設感染対策事業

ア 大型扇風機

（ア） 釧路アイスアリーナ 14台

（イ） 春採アイスアリーナ 14台

（ウ） 柳町アイスホッケー場 12台

(2) 全日本少年アイスホッケー大会

ア 消耗品費

（ア） 抗原検査キット 1,000個

(3) ひがし北海道クレインズ新型コロナ対策啓発事業

ア 委託先

（ア） ひがし北海道クレインズ株式会社

博物館

1 沿革

昭和11年7月14日 初代館長片岡新助氏が収集した鳥獣類剥製、考古資料を柱に「釧路市立郷土博物館」として開館した。

昭和58年11月3日 全面移転改築して、「釧路市立博物館」に改称、開館した。

2 施設の概要

(1) 所在地 釧路市春湖台1番7号

(2) 竣工年月日 昭和58年6月30日

(3) 総事業費 1,911,326千円

(4) 規模 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上4階

1階 1,500.10㎡、2階 886.75㎡、3階 571.17㎡、4階 755.79㎡、
塔屋 145.65㎡、地下 442.30㎡

[主室面積]：展示室 1,162.88㎡、特別展示室 97.95㎡、講堂 165.89㎡、
市民研究室 21.84㎡、研究室 66.37㎡、工作室 103.78㎡、収蔵室 412.09㎡、
事務室 86.63㎡

[収容能力]：展示室 600人、特別展示室 30人、講堂 120人、市民研究室 10人、
会議室 25人

3 常設展示

(1) ホール ・マンモス

(2) 1階 ・地質、植物、動物、昆虫、鳥類、魚類 合計 2,263点

(3) 2階 ・考古、歴史 合計 1,692点

(4) 4階 ・アイヌ民族、タンチョウ、展望室 合計 960点

4 収蔵資料

考古、民族、歴史、動物、植物、地質、産業資料、美術工芸 合計 150,410点

5 教育普及事業（令和3年度）

(1) 特別展示 外来植物展～はるばるきたぜ 道東へ～、ミニ展示「寄生蜂のふしぎな世界」、湿原の忍者SHINOBI BIRD～こっそり暮らすクイナたち～、新聞紙面で振り返る戦後・釧路～釧路新聞創刊75周年～、釧路のまちと人～移り変わる風景と暮らし～、私の博物館「昭和30年、北海道・鉄道の風景～竹中泰彦写真展」、ミニ展示「出区前・帰区後～SL冬の湿原号を支えるひとびと～」、タンチョウイラスト展

(2) 講演・講座 展示解説「ようこそ釧路へ」、標本作りから見たクイナのお話、学芸員トーク

(3) 観察会 春採湖畔探鳥会、春採湖畔草花ウォッチング、しらべてみよう春採湖の昆虫、歴史探訪会「まちなみ散歩」、春採湖汽水いきもの観察会、歩いて見に行こう春採湖畔の史跡、クイナの声に耳を傾ける会、冬のいきもの観察会

(4) 体験学習 竪穴住居で屋根ふき体験、小さいタペストリー作り、夏休み親子土器作り教室、クワダタムシの樹脂封入標本づくり、はじめての羽標本づくり、化石クリーニング教室、カラー拓本体験、黒曜石ナイフを使ってみよう、まが玉をつくろう

(5) 出版物 館報、研究紀要、博物館解説シリーズ、総合案内書、展示解説冊子

(6) その他 竪穴まつり、冬の博物館まつり

6 調査研究事業

- (1) 春採湖ヒブナ生息等調査
- (2) キタサンショウウオ生息調査
- (3) 学芸員個別調査（地域生活史、地域産業史、民族誌、地域昆虫相、植物の生態・分類、魚・両生類の生態、鳥類の生態）
- (4) その他学術調査

7 文化財保護事業

本市に所在する貴重な文化財について、釧路市文化財保護審議会に諮り、その保護を推進している。

分類	指定	名称	所在地等	指定年月日
有形文化財	道	円空作観音像	釧路市米町 巖島神社所蔵	昭和52年3月11日
	市	鳥取村本籍簿	釧路市地方務局所蔵	昭和50年12月12日
		佐野家文書	釧路市中央図書館所蔵	昭和50年12月12日
		釧路新聞	釧路市教育委員会生涯学習課所蔵	昭和50年12月12日
		永久保秀二郎日誌	釧路市中央図書館所蔵	昭和50年12月12日
		星兜（残欠）	釧路市立博物館所蔵	昭和50年12月12日
		市河文書	釧路市中央図書館所蔵	昭和51年12月9日
	国	旧五十嵐家住宅事務所兼主屋	釧路市富士見2-65-22（建物面積120㎡）	令和2年8月17日
重要無形民俗文化財	国	アイヌ古式舞踊	春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会 阿寒アイヌ民族文化保存会	昭和59年1月21日
無形民俗文化財	道	釧路鳥取きりん獅子舞	釧路鳥取きりん獅子舞保存会	令和2年5月19日
	市	紀ノ丘神楽	紀ノ丘神楽保存会	昭和61年10月5日
史跡	国	釧路川流域チャシ跡群		
		モシリヤチャシ跡	釧路市城山1-141-1ほか（9,850㎡）	昭和10年12月24日
		ハルトルチャランケチャシ跡	釧路市鶴ヶ岱3-35-2ほか（11,742㎡）	昭和10年12月24日
		春採台地堅穴群	釧路市春湖台35（17,684㎡）	昭和10年12月24日
		東釧路貝塚	釧路市貝塚1-11-1ほか（6,092㎡）	昭和45年7月22日
		北斗遺跡	釧路市北斗4-1（233,471㎡）	昭和52年7月14日
	市	三津浦古谷遺跡	釧路市三津浦10（39,000㎡）	昭和50年12月12日
特別天然記念物	国	タンチョウ	北海道主な生息地	昭和27年3月29日
		阿寒湖のマリモ	釧路市阿寒町	昭和27年3月29日
天然記念物	国	春採湖ヒブナ生息地	釧路市春採（36.1ha）	昭和12年12月21日
		釧路湿原	釧路町・標茶町・鶴居村（5,011.5ha）	昭和42年7月6日
		クマガラ	主な生息地 北海道	昭和40年5月12日
		オオワシ	主な生息地 北海道ほか	昭和45年1月23日
		オジロワシ	主な生息地 北海道ほか	昭和45年1月23日
		エゾシマフクロウ	主な生息地 北海道	昭和46年5月19日
	市	キタサンショウウオ	主な生息地 釧路湿原	昭和50年12月12日
		砂岩脈（サト・ストーン・ダイク） 谷地坊主（ヤチボウズ）	釧路市興津3（興津海岸） 釧路市丹頂鶴自然公園内（7,000㎡）	昭和50年12月12日

8 連携・協力

釧路市立博物館友の会、日本野鳥の会釧路支部、NPO法人タンチョウ保護研究グループ、太平洋炭砒管理職釧路倶楽部、早稲田大学文学学術院嶋崎研究室、産炭地研究会、釧路臨港鉄道の会、NPO法人環境把握推進ネットワークPEG、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト、国立科学博物館（S-net 関連）、北海道大学植物園、九州大学大学院比較社会文化研究院、釧路アイヌ協会、阿寒アイヌ協会

9 入館者状況

年 度	元	2	3
人 数	28,638人	17,750人	20,275人

埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー

1 施設の概要

- (1) 所在地 釧路市春湖台1番7号
- (2) 建築年月日 昭和51年10月5日着工 昭和52年10月4日開設
- (3) 総事業費 165,000千円
- (4) 規模 鉄筋コンクリート造 3階建 973㎡
収蔵展示室、保存処理室、収蔵室、会議室、整理室、研究室、暗室、写場室、
管理作業員室

2 事業の概要

釧路市内には、現在4カ所の国指定史跡と1カ所の市指定史跡を含む137カ所の埋蔵文化財包蔵地がある。当センターでは、これらの埋蔵文化財の保護・保存を図るとともに、開発行為による緊急発掘調査を実施している。

また、埋蔵文化財知識の普及・啓発のための遺跡探訪会、遺跡発掘見学会、遺跡発掘報告会なども開催している（博物館のページで詳細を記載済み）。

発掘された遺物は整理作業後に収蔵庫に保管し、その代表的なものについては、収蔵展示室において一般に無料公開（9時30分～17時）している。

3 令和3年度事業

- (1) 「まちなか企画展－くしろの文様」開催
- (2) 文化財パトロール受託（北海道教育庁）

4 史跡北斗遺跡展示館の運営

(1) 施設の概要

- ア 所在地 釧路市北斗6番7号
- イ 建築年月日 平成6年12月21日着工 平成7年11月30日竣工
- ウ 総事業費 103,628千円
- エ 規模 木造平屋建 1,176㎡
調整室、ホール、展示室、復元住居

(2) 事業の概要

北斗遺跡は、釧路湿原の西側にある旧石器時代から擦文時代に至る大規模な重複遺跡である。史跡北斗遺跡展示館には、遺構全体模型や発掘調査によって出土した遺物を展示しており、屋内外に復元されている擦文時代の竪穴住居6棟とあわせて、一般に無料公開（10時～16時）している。

また、釧路湿原に根差した人々の暮らしの追体験を目的として、体験講座「竪穴住居で屋根ふき体験」や市内小中学校を中心とした展示解説・施設案内なども行っている。

(3) 令和3年度事業

体験講座「竪穴住居で屋根ふき体験」5月1日（土）参加者13名

(4) 入館者状況

年 度	元	2	3
人 数	3,151人	700人	1,725人

動物園

1 建設の経過

第2次釧路市総合計画（昭和46年～55年）の中に、大規模レクリエーション緑地計画として総面積570haに及ぶ「山花公園」構想が搭載され、その中心施設として動物園の建設が位置づけられた。昭和48年、工事に着手し、広大な用地（47.8ha）を持つ日本最東端の動物園として、昭和50年10月1日開園した。

当初は、北国の自然環境を活かし寒帯系動物を中心とした北方動物園として構想されたが、市民要望から熱帯動物舎も建設された。その後は猛獣舎や類人猿舎を整備したほか、釧路市動物園の特徴的な取組である、ふるさとの動物の展示飼育に力を注ぎ、「ヒグマ牧場」や「ハクチョウ池」、「木道散策路」、「ふくろうの森」など「北海道ゾーン」として整備を進めてきた。

一方、道東の野生動物保護の中心施設として、また周辺環境を生かした環境教育の拠点としての役割も担っている。

2 概要

- (1) 位 置 釧路市阿寒町下仁々志別11番（山花公園内）
- (2) 面 積 47.8ha（タンチョウ保護増殖センターを含む。）
- (3) 飼育動物数 令和4年3月31日現在
 - ア 哺乳類 24種 177点
 - イ 鳥 類 27種 136点
 - 計 51種 313点
- (4) 施設概要
 - ア 管理施設 31棟
 - イ 動物舎 34棟
 - ウ 遊戯施設
 - (ア) 大型 1基（大観覧車）
 - (イ) 中型 3基（アストロファイター、クリスタルゾーン、チェアタワー）
 - (ウ) 小型 5基（アポロ2000、ティーカップ他）
 - (エ) 硬貨投入式（A）（メロディーペット他）
 - (オ) 硬貨投入式（B）（バッテリーカー他）
- (5) 開園期間 通年開園
(休園日：12月～2月までの間の毎週水曜日（祝日にあたる日を除く）及び12月29日～1月2日）

3 入園料金

区 分	入園料（高校生以上）	団体入園料	通年入園料
金 額	580円/人	470円/人	1,050円/人

※団体は有料入園者の合計が15人以上

4 入園状況

年 度	有料入園者数（人）	入園団体数（団体）	無料入園者数（人）	総入園者数（人）
元	68,992	90	52,098	121,090
2	49,815	42	37,338	87,153
3	60,957	43	46,757	107,714

※小中学生は無料入園者数に集計している。

5 タンチョウ保護増殖センター

特別天然記念物タンチョウは、官民一体となった保護の成果により、生息数は回復しているが、主な生息地である釧路湿原の環境は、開発などの影響で未だ悪化しており、タンチョウ個体群の安定には、なお多くの課題が残っている。

当市は、当初は釧路市丹頂鶴自然公園において保護増殖を図ってきたが、施設の狭あい化及びジェット機就航による環境悪化等から、釧路市動物園内に文化庁の補助事業として、昭和48年度にタンチョウ保護増殖センターの建設に着手し、昭和57年度から供用を開始した。

増殖事業は一定程度軌道に乗ったことから、一部を市民に公開し、成果を公表している。

- (1) 位 置 山花公園内
- (2) 面 積 25.8ha
- (3) 事 業 費 257,462千円（昭和48～56年度）
- (4) 施 設 概 要
 - ア 管 理 棟 406.62㎡ 1 棟
 - イ 繁殖ケージ 720㎡ 7カ所
 - ウ 保護ケージ 3,500㎡ 4カ所
- (5) 保護・飼育数 12羽

6 釧路市丹頂鶴自然公園

特別天然記念物であるタンチョウと人間のふれあいの場である釧路市丹頂鶴自然公園は、昭和33年に開園し、昭和62年度から63年度に施設の全面改修を行った。市内有数の観光施設である。

同公園におけるタンチョウの観察、給餌業務から得られた知見は、絶滅の恐れがあるとされるタンチョウの種の保護に役立てられている。

- (1) 位 置 釧路市鶴丘112番地
- (2) 面 積 97,362㎡
- (3) 施 設 概 要
 - ア 駐 車 場 5,800㎡
 - イ 放飼場柵 2,478m
 - ウ 園 路 460m
 - エ 管 理 棟 473㎡ 1 棟
 - オ 便 所 22㎡ 1 棟
- (4) 開園期間 通年開園（休園日12月31日～1月3日）
- (5) 飼 育 数 16羽
- (6) 入園料金

区 分	金 額	
	一 般	団 体 15人以上
一 般	480円/人	384円/人
小学生、中学生	110円/人	88円/人

※一般（高校生以上）

- (7) 入園状況

年 度	有料入園者数（人）			入園団体数 （団体）	無料入園者数 （人）	総入園者数 （人）
	一 般	小学生、中学生	計			
元	70,251	3,251	73,502	622	1,619	75,121
2	15,750	1,101	16,851	42	884	17,735
3	15,632	1,198	16,830	33	696	17,526

7 釧路市阿寒国際ツルセンター

タンチョウ保護のための飼育研究、行動・生態学的研究および教育普及を目的に、平成8年、冬季給餌場に隣接した地に釧路市阿寒国際ツルセンターを設立した。

屋内展示施設では、映像や剥製、模型等を通してタンチョウの生態や習性、過去から現在までの保護活動をわかりやすく解説している。また屋外には、屋外飼育展示場のほか、旧上阿寒農村公園やビオトープを付設している。

また、分館のタンチョウ観察センターは11月～3月の冬季間に開館しており、市民等が、この時期に給餌場に集まってくるタンチョウを観察してその理解を深めることで、タンチョウ保護を一層進めようとするものである。

(1) 位 置 釧路市阿寒町上阿寒23線40番地

(2) 面 積 72,604㎡ (タンチョウ観察センター、ビオトープ及び旧上阿寒農村公園を除く)

(3) 施設概要

ア 教育展示センター	1,181.7㎡
イ 研究センター	298.9㎡
ウ 野外展示場	5,950.0㎡
エ 観察センター (分館)	189.5㎡
オ 旧上阿寒農村公園	16,700.0㎡
カ ビオトープ	30,000.0㎡

(4) 開館期間・時間

本館	通 年	9時～17時
分館	11月～1月	8時30分～16時
	2月～3月	8時30分～16時30分

(5) 飼育動物数

タンチョウ 5羽、 マナヅル 1羽

(6) 入館料金

区 分	金 額		
	個人	団体 (15人以上)	年間券
大 人	480円/人	350円/人	3,620円/人
小 人	250円/人	180円/人	1,810円/人

※大人 (高校生以上)、小人 (小中学生)

(7) 入館状況

年度	有料入館者数 (人)									無料入館者数 (人)	総入館者数 (人)
	個人		団体		年間券			55パス			
	大人	小人	大人	小人	大人	再入館	小人	購入者	再入館		
元	15,904	1,048	8,571	303	46	576	1	1,075	1,798	2,076	31,398
2	7,015	401	902	40	38	340	1	813	379	933	10,862
3	8,141	630	1,032	217	42	333	1	913	366	1,024	12,699

阿寒生涯学習課

1 社会教育事業

(1) 少年教育の振興

ア 学社協働事業—夏休み・冬休み自由研究作品展（2回）

イ チャレンジスクール（小中学生対象）の開講（年7回）

ウ 宿泊体験学習（小中学生対象）

エ 青少年芸術劇場（小学生対象）

※上記ア（夏休み自由研究作品展）～ウ 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 成人・女性・高齢者教育の振興

ア 阿寒シルバー大学（3講座：教養、学芸・健康、課外活動）の開講（年27回）

(3) 芸術・文化活動の振興

ア 阿寒町総合芸術祭の開催（実行委員会主催）

イ 公民館ロビー・コンサートの開催（実行委員会主催）

(4) 文化財関連事業

ア 郷土学習の支援（郷土資料の解説等）

イ タンチョウ越冬分布調査協力

(5) 公民館・図書室活動

ア 釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「絵手紙」移動展」の開催

イ 釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「二科会写真展」」の開催

ウ 公民館分館事業（家庭教育・学校開放等）

エ 移動図書館バス「よむよむ」の運行

オ 地域巡回文庫

(6) 社会教育関係団体の振興支援

ア 阿寒町青少年健全育成連絡協議会の活動支援

（ア）阿寒地区町内会青少年育成部の支援

イ 釧路市文化団体連絡協議会阿寒支部の活動支援

（イ）阿寒町総合芸術祭の運営及び参加

ウ 公民館ロビー・コンサート実行委員会への活動支援

2 阿寒町公民館

(1) 施設の内容

ア 所在地 釧路市阿寒町中央2丁目4番1号

イ 建築年月日 昭和62年3月25日

ウ 主な施設 大ホール、視聴覚室、研修室、和室研修室、調理実習室

(2) 年度別利用状況

年度	元	2	3
件数	1,233件	953件	969件
人数	18,936人	11,482人	14,902人

3 社会体育事業

(1) 学習機会の提供

ア 阿寒ウルトラオリンピック2021（スポーツ協会、スポーツ少年団、健全育成連絡協議会と共催事業）

イ 冬の子どもスポーツフェスティバル（スポーツ少年団及び健全育成連絡協議会と共催事業）

ウ サマーキャンプ（スポーツ少年団及び健全育成連絡協議会と共催事業）

エ 初心者水泳教室

※上記イ・ウ 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

- (2) 生涯スポーツ普及事業
- ア 総合型地域スポーツクラブ「あかんスポーツクラブ」の支援
 - イ 学校開放事業（小中学校及び義務教育学校3校の体育館を一般市民に開放する。）
- (3) 釧路市スポーツ推進委員（阿寒地区12名）
- ア 阿寒地区開催事業の企画・立案・運営・指導に参画
 - イ 地域スポーツ活動の指導及び助言
 - ウ 資質向上のための研修会への派遣
- (4) スポーツ団体の振興支援
- ア 釧路市スポーツ協会阿寒支部の活動支援
 - (ア) 阿寒ソフトボール交流大会
 - (イ) 阿寒パークゴルフ大会
 - (ウ) 阿寒ミニバレーボール大会
 ※上記(ア)・(ウ) 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
 - イ 釧路市スポーツ少年団阿寒支部の活動支援
 - (ア) 奉仕活動
 - (イ) 地区交流会
 - (ウ) スポーツ少年団体力テスト
 - (エ) スポーツ少年団管内交流会
 - (オ) 釧路管内指導者・母集団交流研修会への参加
 ※上記(イ)～(オ) 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

4 社会体育施設利用状況

(1) 阿寒町総合運動公園

施設名	元年度	2年度	3年度
野球場	2,603人	1,210人	1,459人
多目的広場	3,013人	2,262人	2,727人
多種目競技広場	0人	0人	0人
阿寒町スポーツセンター	18,009人	12,321人	11,790人
アリーナ	13,946人	10,209人	9,383人
トレーニングルーム	1,474人	1,116人	1,187人
プール	2,589人	996人	1,220人

(2) 阿寒湖畔スポーツ広場

施設名	元年度	2年度	3年度
スケートリンク	1,094人	1,203人	581人
阿寒湖畔トレーニングセンター	2,582人	1,787人	2,002人
プール	601人	55人	0人
トレーニング室	1,981人	1,732人	2,002人

※阿寒湖畔トレーニングセンタープール 令和3年度は温水ボイラー更新工事のため、休業

5 マリモ研究室

- (1) 阿寒湖のマリモの保全・再生事業
- ア 阿寒湖のマリモ保全推進委員会事務局業務
 - イ マリモの野外育成試験
 - ウ マリモ生育地で急増する水草への対策
 - エ 市民参加型教育プログラム及び指導者育成プログラムの検討
- (2) 調査研究及び保護活動
- ア マリモ保護研究事業
 - イ 共同研究（北海道大学、北見工業大学、神戸大学、国立環境研究所他）
 - ウ 文化財パトロール受託（北海道教育庁）

エ 保護活動

- (ア) マリモ生育地の定期巡視
- (イ) チュウルイ湖岸に打ち上げられたマリモの保全作業
- (ウ) マリモの盗採防止活動

(3) 教育普及活動

- ア 観察会・講座（まりも祭り、阿寒湖義務教育学校・出前講座他）
- イ 教育支援等（北海道大学理学部巡検他）
- ウ 阿寒湖畔エコミュージアムセンター共催事業（ペンケトー・パンケトー自然探勝会他）
- エ 学術交流（台湾におけるマリモの生体展示）

(4) その他

- ア 論文・報告書・学会発表等による研究成果の公開
- イ 報道機関への取材・出演協力
- ウ 阿寒湖畔エコミュージアムセンター展示水槽及び飼育生物の維持管理

音別生涯学習課

1 社会教育事業

(1) 高齢者学級「音老大学」

健康で明るく生きがいのある老後を送るため、その年齢にふさわしい社会的能力や知識を習得するとともに、相互の交流を図り、また、高齢者のグループ活動を促進することを目的として開設している。

ア 開設期間 令和3年4月～令和4年3月

イ 開設事業 令和3年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合学習を中止とし、高齢者向けの生活情報を年4回（趣味、終活、断捨離、エンディングノート）町内全戸配布により提供した。

(2) 社会教育講座の開催

生活技術の習得とともに、豊かな精神生活の創造を促進し、地域の学習活動の振興を図ることを目的に開設した。

ア 親子「ふき紙 年賀はがきづくり」教室（令和3年12月12日開催）

(3) 図書館のおしごと体験

小中学生を対象に、司書業務や読み聞かせ等の体験・奉仕活動を実施した。

ア 期 日 令和3年7月28日、7月29日、12月23日、12月24日

イ 参加者 小学生5名、小学生3名、小学生4名、小学生4名（計16名）

(4) 芸術・文化・文化財関連活動の振興

ア 音別町総合文化祭の開催（展示・発表部門）

イ 音別町郷土芸能保存会への支援

(5) 芸術・文化鑑賞機会の提供

ア 令和3年度釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「絵手紙」移動展」の開催

(ア) 期 日 令和3年9月1日～5日

(イ) 会 場 音別町ふれあい図書館ロビー

(ウ) 鑑賞者数 43人

イ 令和3年度釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「二科会写真展」」の開催

(ア) 期 日 令和4年2月5日～2月9日

(イ) 会 場 音別町ふれあい図書館ロビー

(ウ) 鑑賞者数 80人

2 音別町体験学習センター（こころみ）

(1) 施設利用状況

	元年度		2年度		3年度	
	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊
件数(件)	44	35	18	15	20	10
人数(人)	710	957	236	329	242	201

(2) 主催事業開催状況（令和3年度）

ア 味噌づくり体験（1月22日、1月23日開催）

イ 菊芋そば打ち体験（3月26日、3月27日開催）

ウ レザークラフト体験

エ トールペイント体験

オ 星空探検

※上記ウ・エ・オは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

3 音別町文化会館

(1) 施設利用状況

	元年度	2年度	3年度
件数(件)	103	18	52
人数(人)	3,728	289	699

4 社会体育事業

(1) 主催事業

- ア 子ども水泳教室
- イ 第37回音別町ミニバレーボール大会（町内対抗と共催）
- ウ 第36回ファミリースポーツ交流会
- エ シニア軽スポーツ教室
- オ 第35回親子スケート教室
- カ 子どもカーリング教室
- キ 第39回音別町カーリング大会（令和4年1月14日開催）
- ク 子どもスポーツ教室
- ケ 音別町軽スポーツ大会（町内対抗と共催）

※上記ア・ウ・オ・クは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(2) 釧路市スポーツ協会音別支部～5加盟団体

- ア 町内対抗パークゴルフ大会（新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言延長を受け中止）
- イ 町内対抗軽スポーツ大会（令和3年11月19日開催）
- ウ 町内対抗ミニバレーボール大会（令和3年10月22日開催）
- エ 町内対抗カーリング大会（令和4年1月20日開催）
- オ 資質向上研修会「ピラティス」（令和3年11月10日、11月24日、12月8日開催）

5 社会体育施設

(1) 施設利用状況

施設	区分	元年度	2年度	3年度
温水プール	有料(人)	220	265	0
	無料(人)	252	60	0
	合計(人)	472	325	0
スケートリンク	スピードスケート(人)	602	597	641
	カーリング(人)	292	55	192
	合計(人)	894	652	833
野球場	中学生以下(人)	1,694	401	498
	一般(人)	350	150	503
	合計(人)	2,044	551	1001
パークゴルフ場	各種大会(人)	7回 163	7回 185	8回 180
	一般利用(人)	12,951	11,398	13,265
	合計(人)	13,114	11,583	13,445